
バカと盗人と召喚獣

なんで？

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと盗人と召喚獣

【Nコード】

N2402BA

【作者名】

なんで？

【あらすじ】

この話もしもあの不良漫画の「ドロップ」の安城 豊ノルパンが文月学園の2年だったら・・・的な話です。まー面白そうと思ったら気軽に寄ってってください

プロローグ（前書き）

どうも！初の小説を書いてみましたやっぱり難しいですねでも頑張
っていきますので温かい目で見守ってもらえれば幸いです

それではどうぞ

プロローグ

ただいまの時刻10時12分!さてさて、やっと学校が見みえてきて今は校門の前ですいやゝ改めて見ると結構すごいところに入學したもんだとつくづく思う・・・。「よし、じゃ入りますか」見慣れた校門をくぐり1歩1歩校舎に近づいて行った・・・のはいいが途中で誰かに首をつかまれた「グツ!」と一声あげ振り返ってみたらそこには『鉄人』こと西村宗一である。(どこからわいてきたんだ??)と口に出したら今後お天道様に一生拝めないようなことを心の中で口走っていた。

そんなことを考えていたら鉄人がルパンに向かって「安城お、進学初日で遅刻とは何事だ!!!」と怒鳴りつけてきた。めんどくせえなあゝ

「・・・」

「何とか言ったらどうなんだ!?!」

「・・・」

「まったくお前というやつは・・・」

「オッス鉄じん」?ビシ!

ゴツン!!

「いつ!・・・」

いつつうううつつつ、リアクションどおり頭にげんこつをもらいました今火花見えたよな?なんちゅう威力だよ。だから先生はやなんだよねえゝ

「全く貴様は先生をあだ名で呼ぶとは何事だ、ホレツ」ポイツ

「・・・?」パシッ

なんだこれ?封筒?・・・だよな、なんか入ってんのか?と中身を開けてみると

「・・・F?」

「今日からお前は2年Fクラスだ、お前のような馬鹿にはピッタシな場所だ」

(それ先生が言うべき言葉じゃないだろ・・・)

「まあ、お前をあのメンツがいるところに入れるのはかなり危ないがいいだろう」

「どうこと??そんなに危ないやつがいんのか??まあいいか」

「わかつたんだつたらさっさと行けもう授業が始まつてるぞ」

「・・・」

「まつたく・・・」ハア

なんだかため息が聞こえたがまあいいか・・・

そうしてルパンは急ぎ足でFクラスへ向かった

「F・・・F・・・F・・・」

と、くちずさみながら自分のクラスを探していた。するととてつもなくポツロイクラスが目に入った

「ここじゃないよな・・・なんかFとか書いてあるけど、いやいやここが教室なんて俺は認めんぞ!」

とかなんとかグチを言いつつも中をのぞいてみた・・・するとそこにはまじめとは言い切れないが生徒らしき者たちが教師らしき者の話を聞いていた・・・まちがいないFクラスだマジかよ!!!と彼は心の中でシャウトした・・・。

「まあなにはともあれ一回入ってみるか」

そうして彼は教室の後ろドアからこそそそはいr・・・のではなく後ろドアを思いつきり「バン!」と開けたそれとともに教室にいる半分以上のやつが「ビクッ!」っと反応したとともに当の本人もびつくりした。

なぜなら彼が思いつきり開けたドアがいきなり開けたせいかがタツ！
と言う音をたてて後ろへガシャン！と倒れてしまった。

クラスにビュ〜という風が吹きわたった・・・なんだこの空気は！
？俺がわりーのかよ！？と考えているとさっきまで授業をしていた
教師が

「遅刻をするのはいいですが、あまり物を壊さないでください。」
と心なさそうな言葉で説教された・・・

「それじゃ早く座ってください」
といわれルパンはあいている席（といってもちやぶ台と、座布団な
んだが・・・）に座った

「よつこらしよ」

「初日から遅刻とはおぬしらしいのー」

と、隣からかわいらしい声が聞こえた、横を見てみるとそこには中
学時代からの見慣れた顔が目飛び込んできた

「お！秀吉じゃん、今日からおんなじクラスか〜」

「うむ、よろしくなのじゃ！」

「おう！」

と、軽い挨拶を交わした

「それにしてもルパンよ、なにゆえそんなに遅れたのじゃ？」

「ただの寝坊だよ」

「おぬしの母親はどうなつとるのじゃ？」

とあきれた声で問われた

「朝からいねえんだよたぶん出張だろ今日も帰ってこないと思う。」
ちなみに俺の両親は6年前に離婚して俺は母親に引き取られている。
母親は結構有名な会社の重要人物らしく出張は当たり前のようにあ
った

「そうか、おぬしもたいへんじゃのー・・・そうじゃー！今日はわし

がおぬしの家に泊ってやろう」

「え、いいよ俺飯作れねエから全然もてなしできねえよ」

「だからわしがおぬしの晩飯を作ってやると言っておるのじゃ」

「いや、それわり〜って飯だったら盗って食うから」

「何を言うか、わしとおぬしの仲じゃろう、飯くらい作ってやるの

じゃ、それに最後の言葉には犯罪をよそような言葉なのじゃが・

・

「う〜ん、秀吉がいいって言うんなら俺はいいけどほんとに大丈夫なの？」

「うぬ」

「そうか、サンキユ〜」

なんて会話をしているとなんだか周りの視線がとんでもないほど刺さった、完全にこっちのほうを見ている、え？何これ？怖いんですけど？なんかすごい殺されそうなんですけど、なんで周りの男子に睨まれているんだ？と、あたまのなかがショートしそうな時

「授業中は集中してくださいね」

という先生の助け船のおかげでなんとかその場を切り抜けることができた、ふう〜ご愁傷様・・・

そして教室にチャイムが鳴り響き授業が終わった、やべ〜このクラスでやってける気がしね〜

プロローグ（後書き）

駄文ですいませんできるだけ直していきたいです

あとバカテスはんまり知っているほうじゃないですががんばって
いきます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2402ba/>

バカと盗人と召喚獣

2012年1月6日13時55分発行